

2.別室環境への適応支援

子どもに寄り添い、子どもに合わせて活動する

- 登校継続には、子どもを待っていてともに過ごし、励ましたりなだめたりする教職員が不可欠
- 休み時間や給食などを一人で過ごす不安や孤独感が高まり登校が途絶えやすい
- 再登校開始期は特に緊張が高いため、積極的に遊びを取り入れ支援者や仲間との関係づくりをする
- 関係が親密になったらどんなことがつらかったのかを聞き、不登校の背景の問題を理解する

3.学校環境への適応支援

再登校が安定したらプログラムを作成し構造化

- 登校に抵抗が生じないように、子どもの意向を汲みながら試行錯誤していた活動のうち、奏功した内容を組み合わせ一緒に個々の時間割を作成する
- 登校時間は、最初は短く設定し、短時間でも子どもの達成感が得られるように対人関係ゲームと学習支援を組み合わせプログラムする
- バロメータは子どもの達成感の獲得と登校状況

個別学習支援

子どもの「できない」を「できる」に変える

効果

1. 自己効力感の獲得
2. 切り捨てずに取り組む学習姿勢の変容
3. 支援者への信頼の獲得
4. 登校動機の強化
5. 勤勉性の獲得

活動の構造化

子どもがプログラムに合わせて活動する

学習支援	1) できそうな問題を出し、学習の習得度を正しく理解する 2) できなかったことができたという達成感が獲得できるように出題する 3) 出題の試行錯誤を重ね、子どもが取り組める課題を特定する
集団活動	試行錯誤し、子どもが楽しめ、はしゃぐことのできるゲームを特定する

4.学級復帰支援

登校が定着し、いじってもへこまず大笑いできる
ようになったら学級にサポートグループをつくる

- 子どもの別室登校が定着して感情が解放され、ゲームではしゃいだりポジティブな会話ができるようになったら、社会化の段階を進められる
- 学級の話をして、関心を寄せることができたなら担任を交え、クラスにサポートグループをつくる
- クラスでのグループ構成の実情を理解させ、その中で自分が入れそうなグループを選択させる

級友との関係づくり

対人緊張が高いため別室での仲間遊びで
サポートグループとの関係を結びつける

- 選択されたグループが不安定な場合、逆効果になるので、安定して任せられるグループを選定するよう助言する
- サポートグループには、担任がていねいに事情を伝え、協力を仰いで支援者支援を継続する
- 同意が得られたらていねいに紹介し、対人関係ゲームを活用してグループの関係を結びつける